

地域の情報発信をまちづくりに役立てよう

市民が市政情報を得る手段

- 1位. 新聞報道 (73.6%)
- 2位. 広報さつぽろ (72.6%)
- 3位. テレビ・ラジオ報道 (64.2%)
- 4位. 回覧板 (31.9%)
- 5位. 家族知人から (17.2%)
- ⋮
- 9位. インターネット (9.3%)
- ⋮

私たちの身の回りには、さまざまな情報が発信されており、生活や仕事、学習に役立てられています。今月は、まちづくり活動における情報発信の重要性と厚別区役所の取り組みをご紹介します。

掲載している統計資料は、平成16年度第1回市民アンケート（平成16年7～8月実施。回答者数4,118人）における調査結果です。

情報提供から発信へ

近年、情報提供に代わり情報発信という考え方が強調されています。これは、資料的な内容に止まらない考え方や理念を含んだ広い意味に情報をとらえ、一方通行ではなく受け手が反応することで新しい展開が生まれる、といった波及効果が意識されていることによります。

まちづくりとの関係

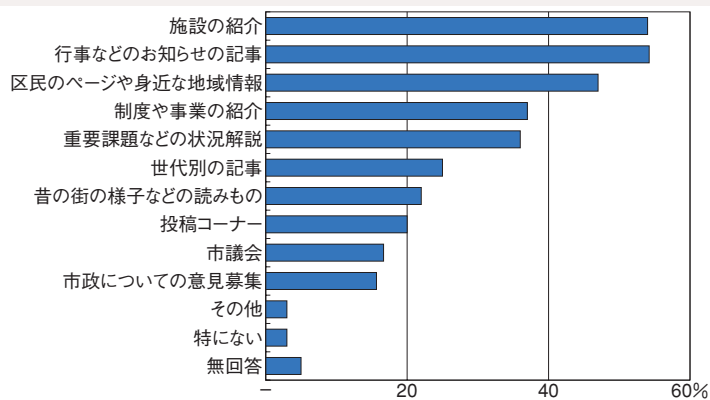
まちづくり活動においても情報発信は重要になります。地域住民が主体となったまちづくり活動では、実際に住んでいる立場からの柔軟な発想や考え方が発信され、住民の間で議論されることにより、適切で効果的な取り組みが実現します。そこで、「周知」から一歩進んだ「住民同士の関係づくり」につながる情報発信が求められてきます。

広報誌の作成

広報誌発行は情報発信の基本として広く行われており、広報活動の中核となっています。

広報誌で読みたいと思う内容

施設紹介など直接自分にとって役に立つ情報が上位を占めているほか、地域情報や課題の解説などの身の回りのことも関心が高くなっています。



厚別区の地域情報を主に掲載している情報誌には、本誌のほか、各地区の連合町内会だより、新聞販売所などが発行しているミニコミ誌があります。

広報誌には、重要事項の解説や時期にふさわしい内容など話題の選定はもちろんですが、どのような記事にするかが重要になります。おもしろい内容が求められるといったも、愉快さよりも活動の楽しさが伝わってくる内容にすることが大切です。課題に真剣に取り組んでいる姿が見える活動する人を見て自分も元気が出てくる、といった効果が工夫することはとても難しい

インターネット

インターネットは勤務先や自宅などで情報に触れることができるなどの特徴があり、現状では次ページのグラフのとおりですが、まちづくり活動の発展に大いに役立つのではないのでしょうか。また、広報誌には活動記録の保存や作成作業を通じて組織の結束が強まる、といった効果もあります。

